

カトリック

広島教区報

記念日を通して平和を

カトリック広島司教区長

三末 篤實 司教

今年、私たちは多くの記念日を迎え、またさらにこれからも迎えようとしています。

今年度の教区テーマは「平和の使徒となろうー和

解をもたらす新しい人」を掲げ、みんなで祈り、協力し、努力しながら今日を迎えています。

聖パウロ年も六月で閉幕となりましたが、私たちはこの年にあわせ、和解の奉仕者（Ⅱコリント五..



三末司教

十八、エフェソ二..十四)、新しい人(Ⅰコリント二..九、四..十六)であった聖パウロのお助けを願いながら進んでまいりたいと思います。

さらに広島が司教区に昇格して五十周年を迎えました。それまでは使徒座の代牧区として活動しておりましたが、広島は第一司教として故野口司教様が任命され、広島司教区が誕生し、今年で五十周年を迎えることになったのです。すべて教区における権限が与えられると共に、あわせて役割を与えられることになりました。このことは神の大きなご配慮であり、お恵みでもありません。私たちは神に感謝をおささげし、教区こそぞつてお祝いし、慶びを分かち合いたいと思いま

No. 77

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

広島市中区鞆町 4-42
広島司教館内
TEL (082)221-6017

す。

昨年、ペトロ岐部と百八十七名の列福式が長崎で執り行われましたが、その祝日が七月一日に全世界で祝いされることになりました。彼らが一日も早く列聖されるようにお祈りを忘れないようにいたしますしゅう。

教皇ベネディクト十六世は、パウロ年に続いて、没後百五十年を迎えた聖マリア・ビアンネを記念し、今年六月十九日(みこころの祭日)から一年間を「司祭年」とする旨を発表されました。聖マリア・ビアンネは宣教師、司祭の保護の聖人です。聖職者への召命が著しく減少している現実の中、みんなが祈り、協力し、助け合う必要があります。例年通り、広島・長崎の原爆記念を迎えます。私たちは祈りと行動を忘れてはなりません。現在の社会の

(二面へ続く)

【八月五日の主なプログラム】

○シンポジウム

十三時～十五時

米国バックスクリストイのクツシング神父、サンデイエゴ大学のヘッドリー神父を迎え「広島を考えることは核戦争を拒否することです」というテーマでパネルディスカッションを行います。

○被爆証言

十五時半～十六時半

○ピースウォーク

十五時半～十七時半

軍都広島島の足跡をめぐり、戦争の歴史を振り返ります。折鶴を通して平和を考えよう！
十五時半～十七時半

色々な形の紙からツルを折る試みを通して、日常生活の中に平和を織りなすヒントを探ります。

○原爆供養塔前での祈りの集い

十七時十五分～十七時五十分

○平和行進(原爆供養塔前)本通り～世界平和記念聖堂)

十七時五十分～十八時半

○平和祈願ミサ

十九時～二十時十五分

○祈りの集い

二十一時～二十二時半

～テゼの調べに乗せて～
青年の企画による歌を中心とした祈りの集いです。

*六日・九日のプログラムは掲載していません。

平和行事 2009 主なプログラム

日時：八月五日(水)六日(木)九日(日)
場所：世界平和記念聖堂他



平和行事 2009 ポスター

(二面の続き)

現状は決して安心できる状況ではありませぬし、それどころか危機の状況になりつつあります。

故ヨハネ・パウロ二世が全世界に向かって発表された「平和アピール」をまた新たに思い起こしたいと思ひます。「戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。」この言葉をよく理解し、そのようにならないよう決意を新たにし、実践に努めたいと思ひます。平和の実現を妨げる大きな要因をなくすよう、すべての人

は決心し、今から実行しなければなりません。真の平和の実現を妨げる根本的な要因は、個人の中にある。まず個人のエゴイズムをなくし、ついで団体、国家、民族、宗教、文化等々皆さんのエゴイズムが取り去られなければなりません。真の平和の建設は困難であることを常に記憶にとどめ、祈り、協力一致して、その真の平和の建設に最善を尽くしてまいりましょう。

皆さんの上に神の祝福をお祈りいたします。



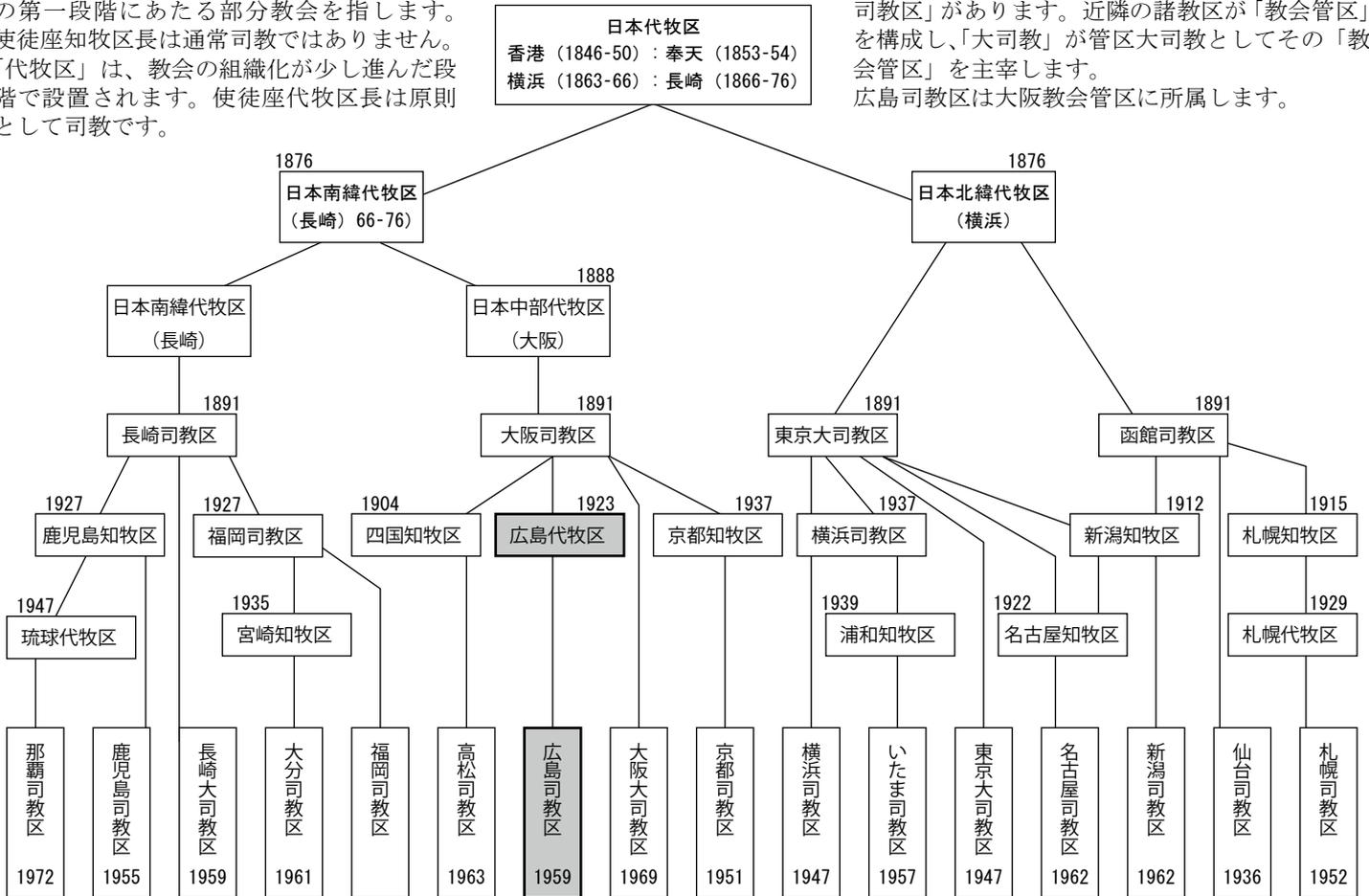
この六月三十日、広島教区は、代牧区から司教区に昇格して五十年という節目を迎えました。「二〇〇三年に教区創立八〇周年を祝ったのと同じように」と思われる方もおられるでしょう。

一九二三年に広島は大阪司教区から分かれて代牧区となり、その三十六年後の一九五九年に司教区となりました。今回祝ったのは、この代牧区からの昇格五十周年です(教区発展図参照)。

日本のカトリック教会 教区発展図

「知牧区」は、宣教地で教会組織を築くための第一段階にあたる部分教会を指します。使徒座知牧区長は通常司教ではありません。「代牧区」は、教会の組織化が少し進んだ段階で設置されます。使徒座代牧区長は原則として司教です。

日本には現在、東京、長崎、大阪の三つの「大司教区」があります。近隣の諸教区が「教会管区」を構成し、「大司教」が管区大司教としてその「教会管区」を主宰します。広島司教区は大阪教会管区に所属します。



* さいたま司教区は 2003 年 3 月 31 日付で浦和司教区から改称
* 名古屋司教区は大阪教会管区

広島司教区の略史

- 1551年 4月～9月： 山口でフランシスコ・ザビエルが宣教
- 1597年 1月： 二十六聖人が、京都から山陽道を通って長崎へ連行
- 1868年 7月10日： 明治政府は浦上の中心的な信徒百十四名を萩・津和野・福山に流配
- 1870年 1月： 広島・岡山・松江・鳥取に流刑、幽閉
- 1873年 2月24日： キリシタン禁制の高札が撤去
- 1880年 2月5日： 中国地方の再宣教開始
- 1923年 5月4日： パリ外国宣教会のスワロン神父とクーザン神父によって岡山から開始
中国地方の岡山・鳥取・広島・島根・山口の五県が、大阪教区から独立し、
広島代牧区が設立、宣教・司牧は、パリ外国宣教会からイエズス会ドイツ西管区へ移管
- 1923年 9月23日： 初代教区長に、ハインリヒ・デーリング大司教が任命され、岡山に教区長館を置き、着任
- 1928年 8月5日： 二代教区長ヨハネス・ロス司教叙階
- 1939年 2月23日： 教区長館が広島市幟町教会に移る
- 1940年 10月6日： 三代教区長アロイジオ萩原晃師任命
- 1945年 8月6日： 広島に原子爆弾投下
- 1954年 8月6日： 世界平和記念聖堂（司教座聖堂）献堂
- 1959年 6月30日： 広島代牧区は司教区に昇格
- 1960年 5月8日： 四代教区長ドミニコ野口由松司教叙階
- 1981年 2月25日： 教皇ヨハネ・パウロ二世来広 「平和アピール」 発表
- 1985年 6月16日： 五代教区長ヨセフ三末篤實司教叙階
- 1995年 8月6日： 被爆五十周年
- 2000年： 大聖年
- 2000年 8月6日： 三教区（広島教区・インファンタ教区・釜山教区）姉妹縁組締結
- 2002年： 《教区年間テーマ》 沖に漕ぎ出せ ～輪を拡げていく共同体～
- 2002年 10月20日： 教区大会開催
- 2003年： 《教区年間テーマ》 沖に漕ぎ出せ ～キリストのみ顔の光を輝かせて～
- 2003年 9月23日： 広島教区創立八十周年
- 2004年： 《教区年間テーマ》 心を一つにして 平和のために働こう
- 2004年 8月6日： 世界平和記念聖堂献堂五十周年
- 2005年： 《教区年間テーマ》 信仰イキイキ 明日の教会 ～一つのこころ、一つのからだ～
- 2005年 8月6日： 戦後・被爆六十周年、三教区姉妹縁組五周年
- 2005年 11月23日： 広島教区代表者会議
- 2006年： 《教区年間テーマ》 信仰イキイキ 新たな出発 ～わたしを遣わしてください～
- 2006年 2月25日： 教皇ヨハネ・パウロ二世来広二十五周年
- 2006年 4月16日： 宣教司牧に関する司教宣言「平和の使徒となろう」
- 2007年： 《教区年間テーマ》 平和の使徒となろう ～殉教者を想い、自分の信仰を生きる～
- 2007年9月22日～24日： カトリック「正義と平和」全国集会
- 2008年： 《教区年間テーマ》 平和の使徒となろう ～今、殉教を生きるとは？～
- 2008年 11月24日： ペトロ岐部と百八十七殉教者列福式（於；長崎）
- 2009年： 《教区年間テーマ》 平和の使徒となろう ～和解をもたらす「新しい人」に～
- 2009年 6月30日： 司教区昇格五十周年



初代教区長
ハインリヒ・
デーリング 大司教
1923年～1928年



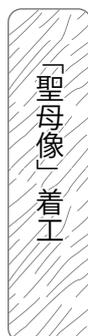
二代教区長
ヨハネス・ロス司教
1928年～1940年



三代教区長
アロイジオ萩原晃師
1940年～1960年



四代教区長
ドミニコ野口由松司教
1960年～1985年



六月二十二日、「平和の元后ヒロシマの聖母」像起工式が世界平和記念聖堂前庭において、三末司教の司式のもとに行われ、着工の運びとなった。この聖母像の落成・祝別式は八月中旬の予定。
（重要文化財世界平和記念聖堂保存活用委員会）

記念聖堂保存活用委員会が発足

昨年末の教区宣司評で承認済みの「重要文化財世界平和記念聖堂保存活用委員会」（委員長―斎藤真仁神父）の第一回委員会が五月九日に司教館で開催された。同聖堂は新しい時代に適応した宗教建築を実現していく村野藤吾氏の原点となった作品で、〇六年七月に重要文化財に指定され、文化財としての価値を維持すると共に、献堂の精神を伝える広島教区の信仰のシンボルとして、聖堂の適切な維持、保全、管理等を委員会が担当する。今年度は保存管理の基本計画等を策定する予定。

教区の動き
二〇〇九年度
第一回広島司教区
宣教司牧評議会開催

去る六月七日、二〇〇九年度第一回広島司教区宣教司牧評議会（以下、教区宣評）が、広島カトリック会館多目的ホールで開催された。三末司教、司祭、修道士、信徒の二十七名で構成され、六月と十二月の年二回、開催されている評議会である。

今回の教区宣評では、次の議題について協議された。

一つ目は、広島教区二〇〇九年年間テーマ「平和の使徒となろう」と和解をもたらす『新しい人』に」の教区民への浸透について各地区・ブロックからの報告があった。

状況としては、各地区、ブロックレベルの評議会ではテーマの解説、平和の使徒推進本部から配布された「名刺型カード」の小教区への配布と紹介を実施しているようであるが、反応としてあまり浸透していない現状のようであった。年

間テーマおよびサブテーマの複数年継続や、テーマに沿った教区レベルの取り組みについて、今後、検討する必要があるとの意見が出された。

上記、議題に引き続き、年間テーマについて更に出席者の想いを深め、互いに分ち合ってもらうため、出席評議員が三つのグルー



プに分かれ、四十分程度の分ち合いを実施し、確認し合った。

二つ目は、六月・七月に実施された記念行事（一）六月十四日…司教叙階記念と司祭、修道者の金祝、銀祝のお祝い（二）六月二十九日…パウロ年閉年の日（三）司教区昇格五十年周年記念日（四）七月一日…ペトロ岐部と百八十七

殉教者の祝日）についての説明が行われた。

その他の議題としては、各推進チーム（平和・きょうどう・養成・在住外国人共生）の活動報告と今後の取り組みについて、各地区・伯雲ブロックからの報告について、それぞれ報告と質疑応答が行われた。また、教区事務局からの報告も併せて行われた。

●各推進チームから

平和推進チームからは、八月の平和行事について、きょうどう推進チームからは、来年二〇一〇年十一月二十三日に三地区合同地区宣教司牧評議会（仮称）の開催に向けた取り組みについて、養成推進チームからは、みことばの分ち合いの継続と地区レベルの養成に関する情報交換の実施について、在住外国人共生推進チームからは、各所から

外国語ミサ、ゆるしの秘蹟の要請があることの報告について、それぞれの説明があった。

●各地区、

伯雲ブロックから

広島地区からは、タレン

トデーターベース（各教会の団体、活動グループの紹介冊子）の作成の実施について、山口島根地区からは、今年十一月二十三日の地区大会開催について、岡山鳥取地区からは教育セミナー（養成）の年三回開催について、伯雲ブロックからは、年四回のブロック会議の開催、フィリピン人の黙想会やブラジル人の共同体としての結びつきなどの課題点について、それぞれ説明があった。

以上の内容が協議され、終わりの祈りと祝福により本評議会を閉会した。

次回は十二月十三日に第二回が行われる予定である。この教区宣評は、評議員によって構成された評議会であるが、教区民一人ひとりの前向きな「新しい人」としての意見も必要です。質問や要望などは、平



和の使徒推進本部にお問い合わせください。

どんな風に使うの？
名刺サイズ年間テーマ
カードの活用を！

皆さまのお手元に、名刺サイズの年間テーマカードが届きましたでしょうか。

このカード、小さいけれど力持ち。皆さんの手帳や読みかけの本の間で、名刺入れの中やお家の冷蔵庫の扉の上で、繰り返し今年のテーマを思い起こさせ、日々私たちを和解をもたらす「新しい人」へと派遣してくれます。

さらに裏を見ると、小さな書き込み欄が、「私の目標は？」「私を支える名言は？」と問いかけています。何を、どのように書き込んで構いませんが、前号の教区報の『行動の助けとして』に挙げられている四つの推進チームからの具体的提案の中から、これと思う取り組みを選び、目標として書き込まれてはいかがでしょうか。また『祈りの助けとして』に挙げられた聖書箇所の中から、ご自分の力や助けとなる箇所を選ばれてもいいでしょう。

サブテーマが単なるお題目に終わることなく、少しでも私たちの日常に響き、私たちの行動にくさびを打ち込むものとなるよう、工夫していきたいものです。

司教叙階記念、司祭・修道者金銀祝、司教区昇格五十周年祝賀

六月十四日、キリストの聖体の主日に岡山教会に於いて右記祝賀ミサが行われました。教区内の司祭・修道女・信徒の方々約二百五十名の参列を頂き賛美と感謝を捧げることは、私たち広島教区の信者にとって大きな喜びと力強い励ましとなりました。

祝賀ミサでは、教会学校の子ども達が聖書朗読を行いました。祝賀会では、信徒手作りのたぐさんの料理や青年達の焼きそばがふるまわれました。司教様始め金銀祝の方々のためには大きなケーキを用



三末司教

意し、ロウソクを吹き消していただき、岡山教会を挙げてお祝いをいたしました。

この日、節目を祝われた方々は、幼い心に司祭・修道・奉献の召命への希望を燃やし、ご両親・兄弟の元から離れ、神学校・修道会・在俗会に入会し、召命へと前進されました。今日を迎えるまでには大変な御苦労が有ったことと思えます。時には何度も逃げ出したいと思ったことがあったのではないのでしょうか。自分を棄て、神の国の建設とその義を求め、人々の救いのため、主の働き手となつて下さいました。司祭・修道・奉献の召命は誰もが手にすることが出来るものではなく、神様から与えられた特別なお恵みだと思えます。司教様・神父様・シスターの方々

の偉大なる人生に尊敬の心を捧げます。私たちも祖先が残した信仰の遺産を大切に守り育て、真(まこと)の神からの真の幸福を人々に分かち、信仰生活の務めを果たしていきたいと思えます。政務ご多忙の中、尊い一日を与えて下さいました三末司



山口神父、Sr. 上田、Sr. 崎村、古澤さん、Sr. 赤窄

教様、尾道教会の山口神父様、援助マリア会シスター上田様、ナミュール・ノートルダム修道女会シスター崎村様、長崎純心聖母会シスター赤窄様、聖マリア在俗会古澤様、又今日の祝賀会に参加できなかった四人の金銀祝の神父・ブラザー・シスターの方々に

信徒一同篤くお礼申し上げますとともに、今後のご健闘、活躍をこころよりお祈りいたします。またお忙しい中、お祝いと祝福のために駆けつけて下さった信徒の皆様、ありがとうございました。最後に準備して下さった岡山教会の皆様にご感謝とお礼を申し上げます。

岡山教会信徒代表

濱口直樹

「よろこび」 ナミュール・ノートルダム修道女会会員 シスター 崎村 幸代

中学二年生の時、私は幟町カトリック教会で洗礼のお恵みを頂きました。洗礼名を決めるために聖人伝を読みました。私の憧れの聖人は修道女でした。その日以来私の心から、シスターになりたいという望みは消えることはありませんでした。大学四年生の時、心を打ち明ける機会を得、卒業

したその年にノートルダム修道女会に入会しました。今年入会五十年を迎えることができましたが、その始まりは幟町教会で受けた信仰の恵みによるものです。当時の懐かしい方々の多くはご帰天なさいましたが、時々、日曜学校時代の先輩の方々にお会いでき、懐かしく思います。刷新の時代を乗り越え、修道生活を続けることができましたことを今感謝しております。

ワールドワイド マリッジエンカウンター ウィークエンドへのお誘い

マリッジエンカウンター(ME)ウィークエンドとは家庭や社会の中にある様々な関わりを基礎となつている夫婦の関わりを深めていくための方法を体験的に身につける二泊三日のプログラムです。夫婦がお互いを、そして結婚という結びつきを新鮮な目で見直し、二人の将来を見つめるとてもよい機会です。また、自分達二人と神との関係、自分達と周囲の人々との関係をも深く見つめるひとときです。夫婦だけでなく、人々との関わりを深めたいと思っている司祭、修

道者も参加できます。MEウィークエンドは、カトリック教会の運動の一つです。日時 ○九年十月十日(土) 二十時〜十二日(月) 十八時 場所 廿日市市 光の園 対象 夫婦(結婚年数、信者・未信者を問わない)、司祭・修道者 申込・お問い合わせ 古川(祇園教会) ○八二八-四二一-四一四一 谷田(幟町教会) ○八二一-九二八-七〇二〇 田中(福山教会) ○八四一-九二八-六八七五 「私は、マリッジエンカウンターに大きな期待をかけています」 前教皇 ヨハネ・パウロ二世

地区便り

岡山・鳥取地区

《地区宣教司牧評議会開催》

第一回は北部地区津山教会で五月十日(日)に開催した。十一小教区から各一人の十一人、修女連二人と司祭評議会から三人、及び地区長指名十一人(養成、平和、きょうどう、殉教、ユニティ・岡山鳥取、青年連合、中高生会から)の二十四人が評議員。

「色々な情報が提供されるが、各教会によって事情が違うので現場に即して活動してください」との地区長の挨拶があり、はじめに地区センターから昨年度の決算報告と今年度の予算提案があった。次に教区平和の使徒推進本部からの報告(特に教区テーマについての説明)、各推進チームからの今年度の活動計画提案が続く、さらに会議時間の半分以上を使って、北部と南部に分かれ、分かち合いをもった。

今後、第二回が北部米子教会、第三回南部岡山教会において開催予定。

山口・島根地区

《信者養成研修会》

* 祈りの体験②

六月二十七日(土)に、ラフオント神父指導のもと山口島根地区事務局で行われた。広島地区からも一名参加し、スタッフも合わせ三十八名が学んだ。

* 社会教説宿泊研修

六月二十七日(土)～二十八日(日)、下関労働教育センターにて開催。担当の林神父指導で、「滞日外国人との関わり」について関わってきた信徒のレポートも交え、約二十名の

「ダミアンの輪」

(広島司教区視覚障害者と手をつなぎ共に歩むつどい)

「ダミアンの輪」では、「広島教区報」「教区事務局からのお知らせ」「心のともしび」、一部の小教区の「教会報」などの点字版を作成して、教会の兄弟姉妹との協働をはかっています。視覚障害者の情報確保のため、点訳・音訳の「個人的なリクエスト」にもお応えしております。また、所属教会に視覚障害者の方がおられましたら、「ダミアンの輪」をご紹介くださいますようお願いいたします。

- 【申込先】 岡山・鳥取地区センター内「ダミアンの輪」事務局
〒700-0814 岡山市北区天神町6-27
TEL/FAX:086-226-2512
- 【問合せ先】 宮崎 玲子 (徳山教会)
TEL/FAX:0834-63-4520
E-mail: yzk.053@aqua.plala.or.jp

参加者が話し合いをもった。宿泊研修後は、山口・島根地区正義と平和協議会第一回担当者会議が開催された。

* 信徒の神学

今年度第二回の研修会は七月四日(土)～五日(日)、福岡黙想の家で実施。

《地区少年の集い》

来年夏の日韓合同キャンプやこの九月に開催される十一月の地区大会に向けての話し合いが七月二十日(月) 防府教会にて開催された。

海峡からの風 15

下関労働教育センターだより

●えん罪の被害に遭った菅家さんの「足利事件」を巡ってこんなことが起きていました。事件当時に捜査を指揮した元栃木県警幹部ブログに「白白強要が最高最善の捜査か」「人の人生をメチャメチャにした責任を取れ」といったコメントが千件以上殺到し、閉鎖したのです。●これは誤った行動であると言わざるを得ません。抗議と改善を求めるのなら、自白を強要した警察や、精度の低いDNA鑑定で立証した検察、それを採用し有罪を下した裁判所であって、個人ではありません。●このブログ事件に触れて深刻に考えたことは、最近スタートした裁判員制度のことです。菅家さんが逮捕され有罪となったとき、「こんな悪人は死刑でもいい」と思った人もいます。しかし、えん罪だと分かると、個人の捜査官に対し「謝罪しろ」と言

い始める。このような感情的な正義心こそ、実は立ち位置がコロコロ変わり、恐ろしい自己矛盾を内在させているのです。●裁判員はくじ引きで決まり、感情的な正義心で判断する人や、被疑者なのに、まるで犯人であるかのような報道を鵜呑みにする人も選ばれる可能性があります。私たちは、人を裁く重さを日常的に考えていませんし、厳しい司法試験の内容さえ知りません。そんな状態で第二・第三の菅家さんを作ってしまったわなやか、大変な不安と重圧感があります。●裁判員制度には様々な義務が課せられています。しかし日本国憲法は国民に対して、一般的義務規定の他、教育の義務、勤労の義務、納税の義務を定めています。裁判員など国家の行為に参加する義務は負わせていません。死刑という、人の死まで量刑させることを義務として押しつける現在の制度には、数々の疑問があります。

(細江教会・廣崎隆一)



船の中でのミサ 左側、ギャリー神父

J-C&M(広島便)

AOSってなに?

福山教会 ギャリー神父

私はもう四年間、福山教会で船員司牧の活動をやっています。「AOSとは何ですか?」と聞かれますので、この機会を使ってAOSのことを紹介したいと思います。

AOSは、日本カトリック難民移住移動者委員会に所属する船員司牧のためのグループです。全国の主要な港、それぞれの近くの小教区と連携しながら活動しています。主な活動は、港に着いた海外の船員に対して、船への訪問、送迎サービス、国際電話、郵便、イ

ンターネットの提供、病人へのケアや希望に応じて船や船員センターで、ミサ祭儀を行っています。

福山では年間三千隻以上の貨物船が入港しています。それらに乗り組んでいる船員の多くが、フィリピン、中国、ミャンマーなどの人々です。船員は、入港した時には、家族との連絡や他の人々とのふれあいによって長期にわたる航海の疲れをいやしています。AOSの全国のボランティアはそうした船員の方々への奉仕をしています。

福山では、AOSセンターはなく、送迎のサービス車もありませんが、AOSの活動を行っています。シスター春日(援助マリア会)と共に訪船の活動をし、クリスマスプレゼントを配り、船でのミサと祝福、暁の星学園の生徒たちの作った双子ロザリオを配り、市内の案内などの活動をして



船の中でのミサ

います。二年前には、福山教会の信者さんたちの編んだ帽子も配りました。古い新聞、雑誌などを配ることもしています。しかし船員への訪問が一番大切です。何も持っていないくても、彼らにとつての大きな喜びとなります。

八月二日に、福山のJFEで訪船体験学習がありましたので参加してみてください。AOSの活動を知りたい、興味を持っている方々に、この機会を使って一緒にAOSの活動をしましょう。新しい出会いができる、自分も新しい人になることができますよ。



広島教区の施設

④ 社会福祉法人 光の園

光の園が社会福祉法人として認可されたのは一九五二年(昭和二十七年)ですが、認可されるずっと以前から、さまざまな福祉活動が手掛けられました。結核のために希望を無くしている人々や顧みられないホームレスの人々、身寄りのない高齢者、その時々助けを必要としている方々をお世話させていただいていました。

児童養護施設「光の園摂理の家」は一九四七年イエズス会のペドロ・アルペ神父様の要請に応え、原爆孤児の保護養育をはじめることから出発しました。食べ物が無いのに食べられない日はなかったという不思議な計らいを感じて「摂理の家」と命名されました。現在、入所理由は大きく変わり、殆どが虐待によって心身に傷を受けた子ども達で七十人余りが生活を共にしています。設立当初から広島教区の各教会の皆様の大変な援助と奉仕をいただいで今日の光の園があります。特に一九六八年に「親の会」とし

て発足し、園児の高校進学費用を援助していただきました「後援会」の皆様には、現在も毎年バザーと会費を通して援助と励ましをいただき、心から感謝しております。

一九九二年(平成四年)高齢社会のニーズにあって、ケアハウスとデイサービスセンターを、二〇〇〇年には居宅介護支援事業所を開設しました。二〇〇九年四月からは「広島マック」の「ナイトケア」と「マック作業所」を光の園に迎えて大きな家族になりました。

福祉行政は厳しくなる一方ですが、一人ひとりの「いのち」に御父とキリストの愛が届き、福音のよるこびが広がって行くために、カトリック施設としての役割を果たしていきたいと願っています。



青少年の活動

青年大会を振り返って

実行委員長 西川基之

五月九日、十日、呉教会において四十六名の参加のもと青年大会が行われた。テーマは『未来の教会三子曰く』。このテーマから伺えるように、「子曰く」とは儒教の論語からとったものである。つまり、今回

の青年大会は論語を扱い、そこから自己考察をし、未来の教会をとともに考えるということを行った。「なんで論語？」という正直な疑問は、ほぼ参加者全員にあったものの、徐々に論語を味わっていくにつれ、聖書内でのイエスの発言内容と論語内での孔子の発言内容が一部であるが似ている事に気付き、今回のテーマを理解していった。最後には今の自分の生活を反省

し、「今の自分に必要な言葉」を書き出し、青年大会を終了した。

今回呉教会の方々のご協力が無ければ、無事に青年大会を終えることはできなかった。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

あっちこっちミサ

六月二十一日十五時から「あっちこっちミサ」が全国各地十六ヶ所で開催さ

月、そして現在の尾道教会が十年目である。

たかさんのことを学び、

たかさんの出来事に遭遇した二十五年間だったように思う。パウロ年を通して「神さまの道具」として生きてきたかを反省している。今「私が生きているのではなくキリストが私のうちに生きていく」という言葉が心に残っている。そして多くの方々の祈りと支えによって今日が有ることも忘れてはならない。本当に教区の皆さまに感謝申し上げたい。



司祭叙階二十五周年を迎えて

尾道教会

山口 道晴 神父

カトリック教会で一年間助任司祭として働いている時に、縁あって広島に来ることとなった。

あれから早いもので広島に移籍して十五年（広島に来てから十六年）近くの時間が過ぎていく。最初の一年半が司教館だった。任地は、最初の岡山教会が四月、廿日市教会が四年二カ



ミサの様子（岡山南教会）



ホスチア作り（三原教会）

れた。このミサは、全国各地で同じ時に、同じテーマで青年ミサをやる」ということで〇二年に始まった。四回目を迎える今回のテーマは「出会いが救い」。これまで私たちが見落としてきた、数々の出会い、それは大きな神様からの恵みであることに感謝しよう。

広島教区では、岡山南教会と三原教会の二ヶ所で開催。

岡山南教会では、十三名参加。あっちこっちミサ初参加の方も半数近くを占め、新しい仲間との出会い

に大きな喜びを感じた。

三原教会では、二十一名参加。ホスチア作りや分かち合いを行った。教会の青年や信徒の皆さんとの出会いもあり、有意義な時間を過ごした。

ネットワーキングミーティング広島「晴れルヤ」こころを晴れやかに」

今回のネットワーキングミーティングでは、自然豊かな環境で参加者全員が心を晴れやかにできるようなプログラムを用意しています。青年の皆さん、是非参加してください。

日時：九月二十、二十一日
場所：岡山県閑谷学校
対象：十八歳以上

（高校生不可）

参加費：四千元

詳しくは、各小教区配布の案内をご覧ください。



司祭年を迎え、司祭の役割、信徒の役割を今一度考えてみたいと思います。未来の教会へ向かって。（よ）